

令和 7 年度 附属島田中学校 家庭科実践報告 R7.7.24

複線型授業による個別最適な学びの充実 ―3 年生保育学習「幼児服の秘密」―

1 はじめに

現代の様々な課題と向き合う生徒を育成するため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。

そこで、3 年生 A 家族・家庭「保育」を題材として、生徒が主体的に学びを選択、調整し、複線的に学習を進めていく題材計画を行った。

2 題材計画

以下の題材計画を立て、実践を行った。(表1)

「幼児服の秘密」を追究しよう	
1	幼児服との出会い
2	秘密を探ろう①
3	秘密を探ろう②
4	秘密を探ろう③
5	発表・まとめ

表1 題材計画

本実践では、「個別最適な学び」を充実させるため、2～4 時間目の学び方を生徒に委ね、学び方を選択・調整し、「学習の個性化」をする機会を設定した。1時間目の「幼児服との出会い」や幼児ふれあい体験に向けて学習する目的意識は、教員が主導し全体で共有した。その後の追究活動は 4 人グループでの小集団で話し合い、学び方を決め、幼児服を通して「体の発達」、「心の発達」、「生活習慣」などを、幼児服と関連付けさせ、学びを深めた。

3 実践の工夫と生徒の様子

(1) 学習環境の充実

生徒が主体的に学びを選べるように、学習環境の充実を図った。図1のように、幼児服の実物、幼児人形、幼児のおもちゃ、発達に関する掲示資料、クラスルームを活用したリンク集、資料動画などを用意することで様々な方法から学びを最適化する機会とした。

多様な資料があることで、動画資料から様子をつかむ班、幼児服を丁寧に観察する班など学び方の複線化が見られた。



図1 学習環境の充実(被服室)

(2) 追究記録シート

各班に図2の追究記録シートをデータ配布し、共同編集ができるようにした。これにより、協働的に学習を進め、学びを調整するきっかけとなっていた。また班の学習状況が視覚的にわかるため、教員が個別に指導する「指導の個別化」を充実させる材料ともなった。

今回のシートは、これまで横軸(体、心の発達など)に分けて指導していた題材を縦のつながり(幼児の年齢)でイメージしやすい形式とした。今まで発達の全体像がわかりにくかった生徒が様々な発達の様子を関連付けて理解することができるようになった。

	0歳 50cm	60cm	70cm	1歳 80cm	2歳 90cm	3歳 100cm	4歳
体の発達	体長が約50cm。頭身が約1.5倍。手足が短く、顔が大きい。	体長が約60cm。頭身が約1.4倍。手足がやや長くなる。	体長が約70cm。頭身が約1.3倍。手足がさらに長くなる。	体長が約80cm。頭身が約1.2倍。手足がほぼ成人並みに。	体長が約90cm。頭身が約1.1倍。手足がほぼ成人並みに。	体長が約100cm。頭身が約1.0倍。手足がほぼ成人並みに。	体長が約110cm。頭身が約0.9倍。手足がほぼ成人並みに。
心の発達	自我意識が芽生え、自分の名前を呼ぶ。物事に興味を示す。	自我意識がさらに強くなり、自分の名前を呼ぶ。物事に興味を示す。	自我意識がさらに強くなり、自分の名前を呼ぶ。物事に興味を示す。	自我意識がさらに強くなり、自分の名前を呼ぶ。物事に興味を示す。	自我意識がさらに強くなり、自分の名前を呼ぶ。物事に興味を示す。	自我意識がさらに強くなり、自分の名前を呼ぶ。物事に興味を示す。	自我意識がさらに強くなり、自分の名前を呼ぶ。物事に興味を示す。
生活習慣	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。
その他	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。	おむつを履く。おむつを履く。おむつを履く。

図2 追究記録シート

(3) ふりかえりシート(OPP シート)

学習前の記録から毎回の学習記録を 1 枚の用紙に記録していく OPP シート(図3)をふりかえりで活用した。これにより、毎時間の追究、学びをふりかえり、次の学習へとつなげることができた。また題材全体の学びを前後で比較することで、自身の学び方をふりかえるきっかけにもなった。

3年生家庭科	幼児服の秘密を追究しよう	3年 番 組 名 前
学習前(学習前の記録)	学習前(学習前の記録)	学習前(学習前の記録)
学習中(学習中の記録)	学習中(学習中の記録)	学習中(学習中の記録)
学習後(学習後の記録)	学習後(学習後の記録)	学習後(学習後の記録)
学習前(学習前の記録)	学習前(学習前の記録)	学習前(学習前の記録)
学習中(学習中の記録)	学習中(学習中の記録)	学習中(学習中の記録)
学習後(学習後の記録)	学習後(学習後の記録)	学習後(学習後の記録)
学習前(学習前の記録)	学習前(学習前の記録)	学習前(学習前の記録)
学習中(学習中の記録)	学習中(学習中の記録)	学習中(学習中の記録)
学習後(学習後の記録)	学習後(学習後の記録)	学習後(学習後の記録)

図3 ふりかえりシート(OPP シート)

4 成果と課題

(1) 成果

知識の習得を伴う題材の学び方を生徒に委ねるのは初の試みであった。授業者として、学び方に戸惑う生徒が出ることや発達に関する知識理解が伴わないなどの

心配があった。しかし、実践をしてみると幼児服への関心が高いこと、実際に幼児ふれあい体験に行くことが意欲を高め、どの班も主体的に学びを創ることができていた。以下の表2のように学習の進め方は様々であった。

班	手順1	手順2	手順3	手順4
A	動画	実物観察	情報整理	
B	実物観察	教科書	動画・ネット	
C	小課題の設定	教科書	経験の共有	実物・掲示

表2 各班の学習手順

学習の進め方は、複線的であったが体の発達、心の発達などに関する理解は十分に見られた。本実践では、複線的な学びを狙い、資料を充実させたことが効果的であったと感じる。実際の生徒の様子では、動画を視聴し、実物を観察した後、また動画を視聴し確認するなど、探求的に学びを進めている様子も見られた。

学びを発表する場面では、教科書に示された内容よりも幅広く幼児服と発達を関連付けられた班が多かった。学びを委ねることで、生徒の興味・関心に沿って、より深く学ぶことができることがわかった。

(2)課題

実践して最も課題を感じたのは「指導の個別化」である。各班が様々な進度、方法で学習を進めている状況で教師の関わり方について研究を深めていく必要がある。今回は、班ごとの記録シートを頼りに、「体の発達だけでなく幼児服と心のつながりにも着目しよう」のように促し、助言を行った。班ごとの追究ではなく、個々に進度が異なる場合、その関わり方はより複雑になることが予想される。生徒に学びを委ねたとしても、一人ひとりの学びがより充実していく関わり、実践の工夫を積み重ねていく必要があると感じた。

引用・参考文献

高橋純(2022). 1人1台端末を活用した 高質な資質・能力の育成のための授業に関する検討.日本教育工学会研究報告集
堀哲夫(2019).新訂一枚ポートフォリオ評価